Ⅰ　調査の目的と課題

1. 調査の目的

本調査事業は、外国人観光客の移動円滑化のため、適切な多言語情報提供モデルを確立し、先進事例として地域の観光振興を推進することを基本的な目的とする。

奈良県は東アジア地域からの外国人訪問者が全体の5割を占めているが、特に韓国、台湾からの観光客の旅行形態は団体旅行から個人旅行へと推移してきており、中国についても平成21年に一部地域で個人ビザが解禁され、平成22年には全面解禁となるため、今後個人旅行客が増加するとみられている。個人旅行客は一般的に徒歩や公共交通機関を利用しての回遊が基本となるため、駅やバス停、観光施設周辺での適切な情報提供が必須となる。

奈良県では平成21年3月、「わかりやすいみち案内ガイドライン」を制定し、奈良公園や西ノ京周辺において案内表示等の整備を進めており、また奈良市や公共交通機関の事業者等についてもこれと連携して整備を進めている。

本調査事業においては、こうした整備に対して一定の評価を得るとともに、具体的な課題を抽出し、改善の方向付けを行うこととしたい。

2. 調査の課題

検証課題として以下の4つのポイントを踏まえ、調査事業を推進する。

①標準的な表示要素

○定形的な表示要素（トイレ、駅等）の表現方法

○公共交通機関での乗車券購入や運賃支払いに関する情報の表現方法

○地域性やターゲット特性を踏まえた文字サイズやレイアウト

○情報の種類を考慮した正確に伝わる表現方法、心証の良い表現

②多言語表示を必要とする情報の範囲

○母国語情報が必要な情報分野と優先度

○図記号（ピクトグラム）のコミュニケーション力

③日本語（漢字）や非言語表現の通用度

○日本語の漢字情報に対する中国語圏、韓国語圏の人の理解度

○非言語表現に対する理解度

④戦略的情報提供

○表示メディアの組み合わせ使用効果の有無と最適な組み合わせ方法

○既存のメディアや表現手法に依存しない新しい情報提供手法

II　調査の概要

1. 調査手法の検討

本調査事業（「奈良市における案内表示等の多言語化調査」事業）では、前述の通り「外国人観光客の移動円滑化のための適切な多言語情報提供モデルを確立する」ことをふまえ、外国人観光客の具体的なニーズや不満点を抽出するため、これまで関西国際空港や京都駅、新大阪駅等で行われてきた「外国人による『ひとり歩き点検隊』」の手法を導入して、実際に外国人観光客に見立てた外国人調査員に対象地域を歩いたり、交通機関を利用したりしてもらい、サイン類をはじめとする様々な情報提供メディアを実際に利用することで評価や意見を得ることとした。

2. 調査の基本的な流れ

本調査事業は以下に示す4つのフェイズで構成されている。

事前調査フェイズ

・本調査全般に関わる基礎的な情報の収集、評価と現状調査の精度と効率性を高めるための準備等を行うフェイズ。
・関係者（運営協議会）インタビュー調査により、対象地域内の観光情報の多言語化状況等を把握。

▼

現状調査フェイズ

・3つの対象観光エリアを、実際に外国人観光客に見立てた外国人調査員や外国人有識者に巡ってもらい、多言語化の現状について評価や指摘を得るフェイズ。
・評価、指摘事項から問題点、課題、改善ポイント等を抽出、整理。

▼

実証・試行フェイズ

・現状調査で得られた結果に基づき、既存のサイン、ツール類等の改良や、新しいサイン、ツール、メディアの開発等を行うフェイズ。
・サイン、印刷物、音声、デジタルコンテンツ等を制作。

▼

検証調査フェイズ

・実験システムについての検証調査を行うフェイズ。
・調査手法は現状調査に準じる。
・検証調査で得られた結果に基づき、今後の多言語表示の在り方を模索。

3. 運営協議会の設置

本調査事業を円滑かつより効果的に推進していくため、運営及び調整を行う機関として、関係者で構成する「『奈良市における案内表示等の多言語化調査』事業運営協議会」（以下「運営協議会」という）を設置した。

運営協議会の構成メンバーは次の機関、団体とした。

近畿運輸局
奈良県
奈良市
一般財団法人奈良県ビジターズビューロー
近畿日本鉄道株式会社
奈良交通株式会社

本調査事業期間中、計3回の運営協議会を以下の通り開催した。

名称	開催日	概要
第1回運営協議会	平成21年11月25日（水）	・運営協議会設置趣旨説明 ・現状調査内容説明 ・現状調査コースの予備調査　等
第2回運営協議会	平成22年1月20日（水）	・現状調査結果説明 ・実証モデル開発内容説明 ・参加メンバーによる意見交換　等
第3回運営協議会	平成22年3月18日（木）	・検証調査結果説明 ・参加メンバーによる意見交換 ・報告書構成確認　等

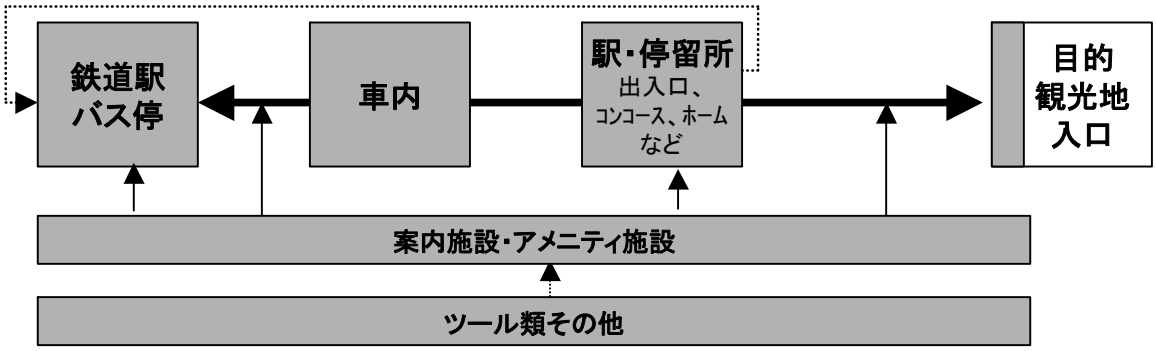
※現状調査当日（平成21年12月8日）に外国人調査員を交えた意見交換会を開催。

4. 調査の範囲と対象メディア

具体的な調査の範囲と調査対象メディアを次のように設定した。

①調査範囲

調査を行う範囲は、公共交通機関の駅や停留所から観光地の入口までを基本とし、それらの間に所在する誘導案内や施設、地点表示、案内所等の情報施設、乗物の車内等を含むものとする。なお、個々の観光地のプライベートエリア内は調査範囲外とするが、事実上公共通路のようになっている場所（例：東大寺南大門付近）については調査範囲として取り扱うこととした。



東大寺南大門前
実際は東大寺のプライベートエリアにあたるが、観光客でにぎわうオープンな空間になっているので調査の対象範囲内に含めた。

②調査対象施設、メディアの選定

単にサイン類だけにとどまらず、外国人観光客が観光中に接触する可能性のある情報メディアを幅広く対象とした。

区分	調査対象施設・メディア
乗降施設	
近鉄（鉄道）	・近鉄奈良駅 ・大和西大寺駅 ・西ノ京駅
奈良交通（バス）	・奈良公園周辺のバス停 ・西ノ京周辺のバス停 ・平城宮跡周辺のバス停 ・観光強化型路線バス「バンビーナ」
券売設備	・自動券売機 （近鉄奈良駅） ・バス運賃支払機
案内設備	・バス車内放送
観光地	・奈良公園 ・東大寺 ・ならまち地区 ・薬師寺 ・唐招提寺
案内施設	・観光案内所（近鉄奈良駅）
アメニティ	・トイレ ・コインロッカー
その他情報ツール類	・ウォーキングマップ ・観光地、施設案内 ・その他

③評価ポイントの設定

調査項目、特に現状調査において対象施設、メディアに対して評価するポイントは、以下に示したものを基本とする。ただし、調査員の自由な発想や印象を尊重するため、実査においてはこれら以外の内容も自由にあげてもらえるよう、実査の際に随時問いかけるなど配慮した。

これらの評価ポイントは、主としてサインに関わること、機器や設備に関わること、人的対応を含む案内施設に関わること、ツール類に関わることの4つの区分に分け、以下のような視点でチェックを行うこととした。

区分	点検項目
サイン	・案内表示の位置 ・母国語表記の有無 ・母国語表記の正確さ（誤訳、正しくない表現はないか） ・文字や記号の読みやすさ（サイズ、配置） ・見やすさ（表示の色、明るさ） ・表記方法の統一性（ブレはないか） ・表示の継続、連続性（途中で表示が途絶えていないか）
機器・設備	・設備の見つけやすさ ・母国語の説明表記の有無 ・母国語の説明表記の位置 ・母国語表記の正確さ、理解のしやすさ （誤訳、正しくない表現はないか）
案内施設 （人的対応、設備等）	・施設の見つけやすさ ・スタッフの母国語の会話力 ・スタッフの雰囲気、態度 ・スタッフの回答内容のわかりやすさ ・会話以外の対応状況 （資料・パンフレット配布、筆談での対応等） ・自己対応できない場合のフォローの方法 （母国語対応施設やスタッフへの誘導） ・パンフレット、ポスター等ツール類の充実度 ・ツール類の見つけやすさ、提供方法の是非 ・施設自体の見つけやすさ、使いやすさ ・設備の清潔感
その他メディア （印刷物、放送等）	・パンフレット、ポスター、放送等の母国語対応 ・内容の正確さ、理解のしやすさ、情報量 （欲しい情報が書かれてあるか） ・放送の聞き取りやすさ

5. 事前調査（運営協議会参加団体への聴き取り調査）

現状調査の精度を高め、より実効性のある実証モデルの開発を行うため、事前調査として運営協議会参加団体への聴き取り調査を実施した。

この聴き取り調査では各団体の外国人観光客への情報提供の現状や独自の情報メディアの開発状況、実証モデル開発への要望等を聴取した。

以下に聴き取り調査の結果を示す。

①多言語化の現状と当面の予定

■奈良市

○観光案内板は日英併記になっているが、設置されているマップは多言語化されている。

○印刷物は多言語対応していない。

○観光案内所の多言語対応は奈良市観光協会に委託している。案内所においては、英語対応のみではあるが、「奈良ボランティア通訳ガイド」を設置し、人的対応を行っている。

○奈良公園内の案内表示等の多言語化については、奈良県の管轄のため、把握できていない。

○理想として、フランス語表記も必要だという要望も出ている。

■近畿日本鉄道株式会社

○利用客にとって緊急度が高いものは多言語表示を行う。
また、別途定めているターミナルや観光駅等の出口、公共交通機関、外国人利用の多い観光施設等、案内所も多言語表示を行うこととしている。

○近鉄奈良駅は徒歩客とバス利用客を東改札と西改札に分けているが、それがきちんと案内できているのかが疑問である。

■奈良交通株式会社

○奈良公園周辺の循環路線（回遊ライン）のバス停の一部で多言語化（日英2ヶ国語表記）を実施している。

※調査員注釈：国の観光政策である「ビジット・ジャパン・キャンペーン」に連動して、外国人観光客にもわかりやすいようナンバリングと英語表記を施し、また、主要バス停では、路線図や時刻表にも英語表記を施すとともに、バスのカラーに合わせた標柱を新たに設置している。

○車両については「バンビーナ」で車内サイン（路線図等）と車内放送を多言語化している。

※調査員注釈：「バンビーナ」はレトロ調のイメージで、車体に奈良を代表する鹿をデザインしたバスの愛称。奈良市内循環線で運行。

○サイン類のデザインルールや表記基準についてはマニュアル等、特に明文化したものはない。制作業者で管理している状況にある。

○路線図等の印刷物では、多言語化したものは作っていない。

○当社ホームページにおいて路線情報や運行情報を提供しているが、現状は日本語のみとなっている。もし多言語化する場合、社内だけで対応しきれないため、費用負担をどうするかが問題である。

■奈良交通株式会社＜つづき＞

○当面の多言語化の課題は平城遷都1300年祭に関係するものだが、シャトルバス用の発着施設の整備は当社が直接実施するものではないため、どの範囲までの対応になるかは未定である。シャトルバスが平城遷都1300年祭のための期間限定のものかどうかは把握できていない。

②本調査に対する要望・意見・その他

○提案書での西ノ京のコース設定は「近鉄奈良→大和西大寺→西ノ京→薬師寺→唐招提寺」になっているが、薬師寺・唐招提寺間で迷う観光客がわりと多いため「唐招提寺→薬師寺」のコース設定にしてほしい。

○唐招提寺前の「歴史の道」（案内表示）を全て撤去し、新設するには許可申請等に時間を費やすため、画面刷新での対応になると思う。

○平城遷都1300年祭における、大和西大寺駅南側からのシャトルバスはあくまで期間限定であり、それ以降を見据えた提案を求めている（平城遷都1300年祭のオフィシャルルートとされる南側ルートは一過性のものであるため、北側ルートでの提案でも良い）。

○平城宮跡エリアは単純であるが、調査の困難が予想される。平城宮跡が会場となる平城遷都1300年祭の配置計画等の情報を得た上での調査を望む。

○普段、当たり前になっているサインがどう悪いかはわからないため、本調査はそれらを知る良い機会だと思っている。

○大和西大寺駅が最新の多言語化更新事例となるため、調査対象としてはふさわしいと思う。現状、橋上コンコース部分の改修にとどまっているが、乗車位置によっては地下通路を通る利用者も存在する。そのため、橋上・地下の双方を調査対象とした場合の比較対照には興味がある。ただ、地下道の案内表示の多言語化更新は時間的に非常に厳しいものと思う。

○近鉄奈良駅では改札内コンコースから奈良公園方面への誘導を行っているが、どの程度有効かを確認したいので、是非改札内コンコースからのスタートとしてほしい。

※調査員注釈：当初の提案書では奈良公園エリアの調査コースについてはスタート地点を「近鉄奈良駅（地下コンコース）」としか記載していないため、「改札内」ということを明確にする。

○紙媒体等の消耗品は後々補充が必要であるため、できれば恒久的な案内表示で対応したい。

○大和西大寺駅から平城宮跡への徒歩ルートにおいて、北側は近いが、途中で歩道が無くなるため、南側の方が安全だと思う。

○バスの利用体験等の調査を行う場合は、英語対応をしている奈良公園周辺のバス停や循環バスを対象としたい。他に、奈良中心街から唐招提寺までの路線もあるため、西ノ京周辺で行っても良い（ただし、唐招提寺から奈良中心市街地へ行くためには、唐招提寺からバス停まで距離がある）。

○路線バスの一番の課題は
①乗車方法（前乗り／後乗り）
②運賃支払い方法（均一／区間制・先払い／後払い）
③運賃精算方法（両替／釣り銭）
等の情報提供を行うこと。それらを上手く多言語化できる手法が見つかれば、奈良のみならず全国で活用できると思う。

②本調査に対する要望・意見・その他＜つづき＞

○車内放送の多言語化は、停留所間が短いため、何ヶ国語にも対応することは事実上困難ではないかと思う。外国人観光客はガイドブック等で下調べしてあらかじめ情報を得ているケースが多いため、必要なバス停のみを対象とするのが現実的だと思う。

○バス停の多言語化事例としては国立博物館前停留所をあげておく。デザイン的にも複数の標柱を整理し、すっきりしたものとなっており、当社が今後多言語化を図っていく際のプロトタイプとして位置づけられると思う。

6. 現状調査

現状調査では、対象地域での外国人観光客に対する情報提供の現状を把握することを軸に、問題点やニーズの抽出を行い、それらからより具体的な実証モデルを開発するための方向性を得ることを目的とした。

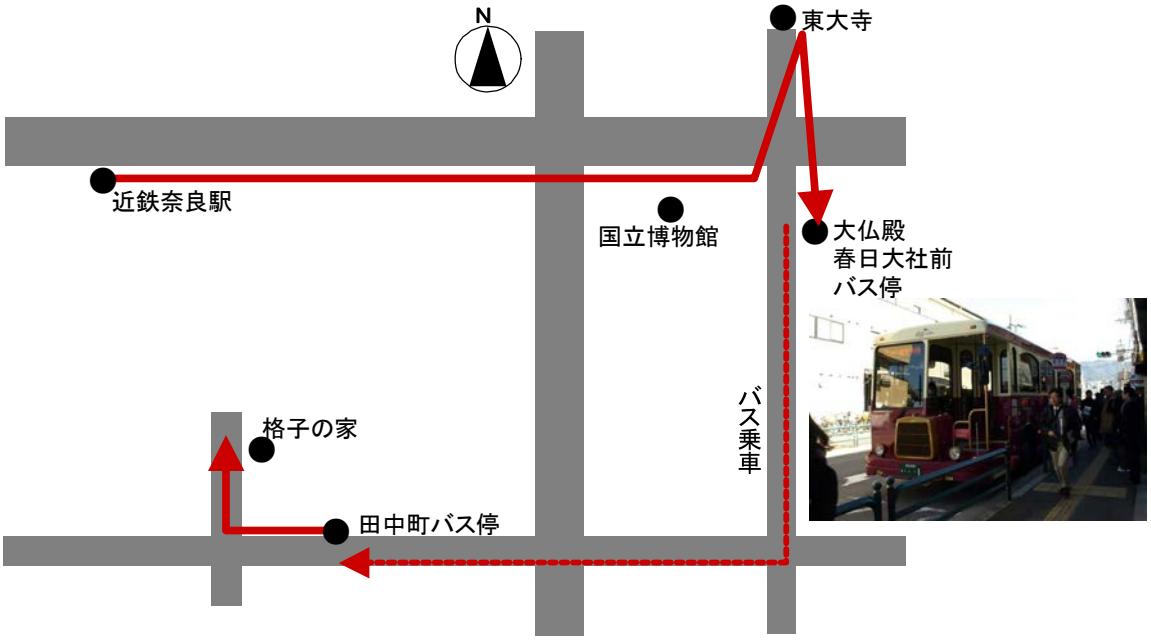
①調査コースの設定

実際の外国人観光客の行動により近づけると同時に、実査時の効率化を図るため、実際の観光で起きうる様々なイベントを想定し、仮想的な目的地を設定した上で、電車やバスに乗ったり（切符の購入、乗車する列車、バスの選定、のりばへの移動、車両の乗降等を含む）、案内所、トイレを利用したり、観光地に到達するまでにいろいろなイベントを配置することで一連の調査コース（調査順路）を設定した。

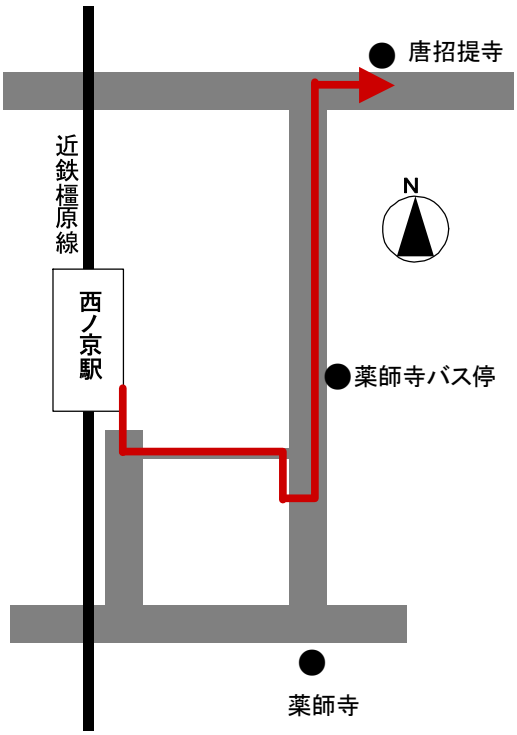
なお、目的地とする観光地は、実際に外国人観光客の立寄り率が高いこと、前述の調査対象施設、メディアを網羅できること、一日間の実査スケジュールに沿うことを考慮して選定した。

コース	主な経路・イベント
①奈良公園周辺コース	**近鉄奈良駅～東大寺～ならまち** 近鉄奈良駅から東大寺までの誘導確認と移動。 大仏殿春日大社前バス停からならまちへバスで移動し、最寄り停留所からならまちの観光施設への誘導確認を行う。 ［イベント］ ・観光案内所での問い合わせ ・コインロッカー、トイレへの誘導確認 ・観光強化型路線バス「バンビーナ」乗車、下車、運賃支払い
②西ノ京周辺コース	**近鉄奈良駅～西ノ京駅～唐招提寺/薬師寺** 近鉄線を利用して途中、大和西大寺駅で乗換え、西ノ京駅で下車後、唐招提寺への誘導確認、移動と、（路線バス利用を想定して）唐招提寺から薬師寺への誘導確認を行う。 ［イベント］ ・近鉄線の利用（切符購入、乗車） ・大和西大寺駅での乗換え ・トイレの利用
③平城宮跡周辺コース	**大和西大寺駅～平城宮跡** 大和西大寺駅および大和西大寺駅前バスターミナルから平城宮跡への誘導確認を行う。 （沿道での誘導案内がほぼ存在しないため現地への移動は省略）

奈良公園周辺コース



西ノ京周辺コース



②調査員の属性

調査員は中国語圏の簡体字、繁体字の2グループと韓国語圏、英語圏の、合わせて4言語グループで構成した。奈良を訪れる外国人観光客の実情に合わせて韓国語圏の調査員の比率をやや高めている。

なお、実査ではこれに有識者1名が点検に加わり、主としてそれぞれの専門分野からの意見や感想を聴取した。

それぞれの調査員のプロフィールを以下に示す。

区分		出身国	性別	職業
1	有識者	韓国	女性	企業経営者
②	中国語グループ調査員（簡体字）	中国	女性	学生
3	中国語グループ調査員（簡体字）	中国	女性	学生
④	中国語グループ調査員（繁体字）	台湾	男性	社会人
5	中国語グループ調査員（繁体字）	台湾	男性	学生
⑥	韓国語グループ調査員	韓国	女性	社会人
7	韓国語グループ調査員	韓国	女性	学生
8	韓国語グループ調査員	韓国	女性	学生
9	韓国語グループ調査員	韓国	女性	社会人
⑩	英語グループ調査員	米国	女性	社会人
11	英語グループ調査員	英国	女性	社会人
12	英語グループ調査員	豪州	男性	社会人

※丸数字は調査員リーダー

③予備調査（調査コースの点検）

実査に先立ち、平成21年11月25日（水）の第1回運営協議会後、現状調査コースの点検を行った。

これは、運営協議会メンバーに具体的な実査方法を知ってもらうことと、コース設定に矛盾や遺漏がないか、時間配分上の無理がないか等を確認することを目的とした。

④現状調査の実施

実査は平成21年12月8日（火）の一日で行った。
当日は12月としては暖かな快晴の一日で、あらかじめ定めたスケジュール通り、円滑に調査を進めることができた。

実査開始に先立って調査員に対して、奈良市が配布しているウォーキングマップ（当日訪れる観光地の情報、地図、交通図等が記載された印刷物）を配布して簡単な説明を行った。配布した印刷物についてはそれらへの評価、意見も得ることとした。

実査終了後、運営協議会メンバーとともに、有識者や調査員から全般的な印象や総合的な意見を聞く意見交換会を実施した。

平成21年12月8日（火）	
時間帯	内容
9:00～12:00	・近鉄奈良駅（9:30スタート） ・奈良公園 ・国立博物館前、大仏殿春日大社前バス停 ・東大寺 ・ならまち（田中町バス停付近） 終了後、近鉄奈良駅周辺にて昼食
13:30～16:00	・近鉄奈良駅 ・大和西大寺駅（乗換） ・西ノ京駅 ・唐招提寺 ・薬師寺 ・大和西大寺駅前
16:30～17:30	・意見交換会

7. 実証モデルの開発

現状調査で得られた意見や要望に基づき、実証モデルの開発を行った。

実証モデルは、現状調査で表記のブレや誤記等が発見された既存のサイン類を改修するものと、要望や指摘の多い項目に対して新規にサインや印刷物、音声、デジタルコンテンツ等を制作・設置するものに区分される。

①選定条件

現状調査では非常に多くの指摘や意見、要望が寄せられたが、それらすべてに答えることは時間的、予算的に困難であるため、以下に示す考え方に基づいて実証モデルとして取り上げるサイン、ツール類を選定した。

- ○誤字、誤記については原則、現状調査で指摘されたものすべてを改修対象とする。ただし、同じデザインや表記のメディアが広範囲に展開されているようなケースや、近日中に更新（廃止）が予定されているものは除外する。
- ○指摘が多い、または誤解されるケースが多かったもの。
- ○直接の指摘や要望には対応できないケースで代替措置として有効なもの。
- ○運営協議会からの要望によるもの。
- ○以上の条件を満たし、かつ時間的に開発が可能で設置スペース、設置許諾が得られるもの。

②実証モデルのアイテム一覧

以上の抽出条件にしたがって実証モデルとして開発するアイテムを具体的に選定した。なお、これらが検証調査の対象となる。

以下に実証モデルとして開発するアイテム一覧を示す。

■アイテム一覧

事業者名	番号	アイテム名称	設置・対応場所	対応方法	サイズ
近畿日本鉄道株式会社	A	構内誘導表示	近鉄大和西大寺駅	新規設置	1200×600
	B	構内誘導表示	近鉄西ノ京駅	新規設置	600×2000
奈良交通株式会社	D	移動経路のバス車内における音声案内	バンビーナ車内(4ヶ国語) 市内循環車内(2ヶ国語)	その他	
	E	移動経路のバス停における路線案内	主要バス停	画面改修(全面)	300×405
	F	観光地周辺のバス停における周辺案内	平城宮跡バス停	画面改修(全面)	300×405
奈良市	H	観光地周辺での路上における周遊経路案内（イラストマップ）	唐招提寺バス停付近	画面改修(全面)	960×1700
	I	トイレの使用説明	薬師寺バス停前トイレ	新規設置	200×300
奈良交通株式会社	K	バス行き先案内	西大寺駅北口バス乗り場	画面改修(全面)	450×1200
	L	バス路線案内		画面改修(全面)	600×2790

■アイテム一覧＜つづき＞

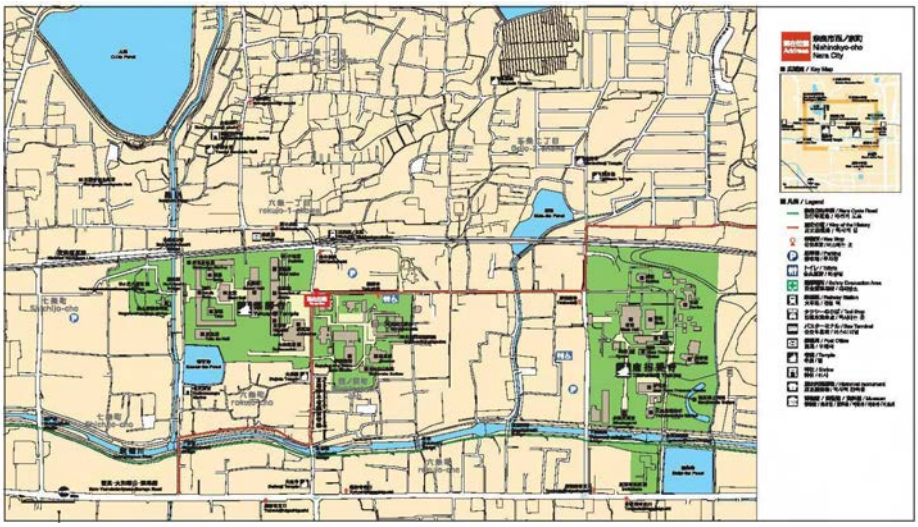
事業者名	番号	アイテム名称	設置・対応場所	対応方法	サイズ
近畿日本鉄道株式会社	1	柱巻き誘導サイン	近鉄奈良駅改札内	画面改修(全面)	2490×842
	2	インフォメーションテーブル	近鉄奈良駅改札内	画面改修(部分)	45×370 45×570
	3	改札外マップ (奈良市内観光ガイドマップ)	近鉄奈良駅改札前	画面改修(部分)	18×65
	4	全体路線図・沿線マップ	近鉄大和西大寺駅	新規設置	1033×731
	5	西の京周辺マップ	近鉄西ノ京駅	新規設置	450×300
奈良県・奈良市	6	観光案内所でのパンフレット 案内サイン	近鉄奈良駅 総合観光案内所	新規設置	350×470
奈良県	12	奈良公園周辺案内	興福寺付近	画面改修(全面)	1590×2060
	13	地下道誘導サイン	地下道内	画面改修(部分)	89×428
奈良交通株式会社	14	バス停時刻表・路線図	奈良国立博物館前	画面改修(全面)	1370x700
奈良交通株式会社	15	「大仏殿春日大社前」バス停前 誘導サイン	大仏殿春日大社前 バス停前	画面改修(全面)	875×1785 押え25
奈良交通株式会社	16	バンビーナ車内路線図	バンビーナ車内天井	画面改修(全面)	1210x880
	17	バス運賃両替表示 バス運賃箱ステッカー	各バス車内	新規設置	50×150 30×70
	18	バス整理券受け取り表示	各バス車内	新規設置	140×90
奈良交通株式会社	19	コミュニケーションボード	各バス車内	その他	297×210 (A4判)
奈良市	21	周辺案内サイン	近鉄西ノ京駅前	画面改修(部分)	50×500
	22	奈良町周辺案内マップ (イラストマップ)	田中町バス停前	画面改修(全面)	1765×2965
奈良交通株式会社	23	バス停までの誘導表示	薬師寺バス停	画面改修(全面)	304×410
	27	男女・多機能トイレピクトグラム	薬師寺バス停前トイレ	画面改修(全面)	210×210
	28	多機能誘導サイン		画面改修(全面)	460×310
	29	和・洋便器ピクトグラム		新規設置	120×120
奈良市	32	格子の家施設サイン	ならまち格子の家	画面改修(部分)	45×590
	33	奈良町ポール状誘導サイン	奈良町周辺	画面改修(部分)	35×100
奈良交通株式会社	34	バンビーナ車内路線図	バンビーナ車内側面	画面改修(全面)	190×1240
	35	バンビーナバス停標柱	バンビーナ各バス停留所	画面改修(部分)	20×300 30×300ほか
奈良市・奈良県	36	デジタルサイネージ利用による 観光案内	近鉄奈良駅総合観光案内所	その他	1960(縦)×937(横) ×635(奥行)
近畿日本鉄道株式会社 奈良交通株式会社	37	公共交通機関利用パンフレット	各観光案内所	その他	200×100

③実証モデルの具体イメージ

実証モデルとして開発したサイン、印刷物、音声、デジタルコンテンツ等の具体的なイメージをいくつか示す。

なお、これらすべての詳細な仕様やデザイン、内容については別冊「奈良市における案内表示等の多言語化調査 調査報告書 別紙①～③」に記載した。

■マップサイン（西ノ京周辺）



■トイレの利用案内（上）／ピクトグラム（下）

■総合観光案内所の表示

■駅構内の案内・誘導サイン

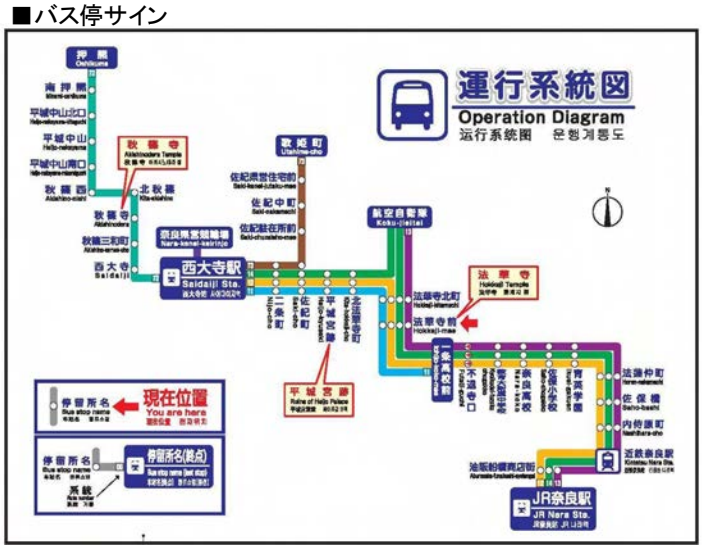
■駅構内誘導サイン

■駅構内マップサイン

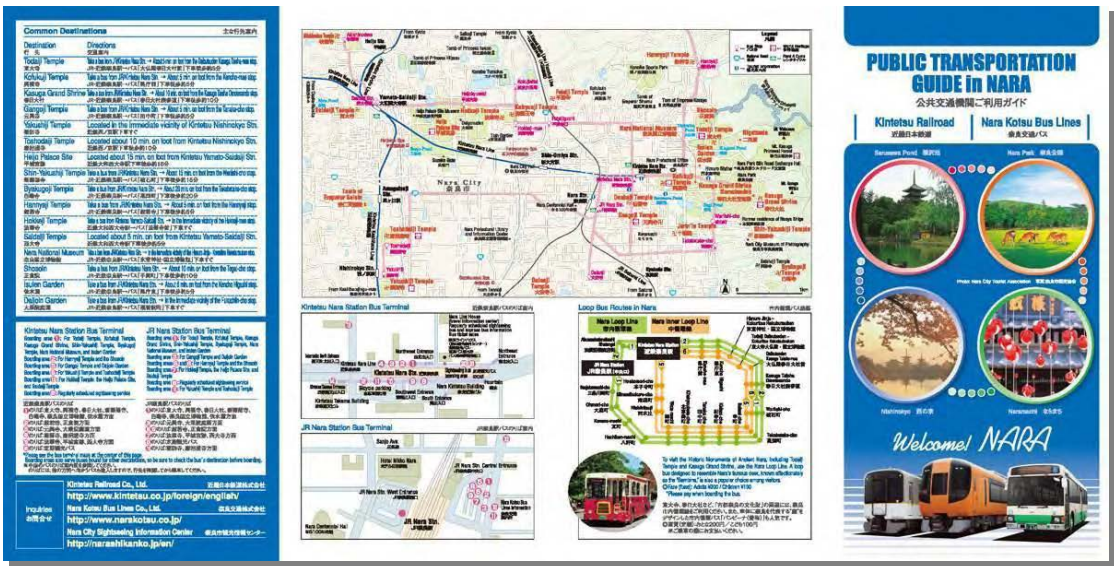
■バス車内サイン

■バス停サイン

■バス停サイン



■公共交通機関利用ガイド



8. 検証調査

開発した実証モデルに対して、現状調査で得られた意見や要望が反映されているか、さらに改善すべきポイントはないか、等を把握するため検証調査を実施した。

①調査コースの設定

基本的には現状調査の調査コースに準じるものとした。ただし、仮設作業等の工程的な問題やバスの運行時間に合わせて順序を入れ替えた部分がある。

②調査員の属性

調査員は現状調査と同様に中国語圏の簡体字、繁体字の2グループと韓国語圏、英語圏の、合わせて4言語グループで構成した。検証を目的としているため、人数は現状調査よりも若干減らして各言語2名ずつとし、言語によるウェイトはかけていない。
なお、現状調査の参加者が半数程度含まれている。

それぞれの調査員のプロフィールを以下に示す。

区分		出身国	性別	職業
①	中国語グループ調査員（簡体字）	中国	女性	学生
2	中国語グループ調査員（簡体字）	中国	女性	学生
③	中国語グループ調査員（繁体字）	台湾	女性	社会人
4	中国語グループ調査員（繁体字）	台湾	女性	学生
⑤	韓国語グループ調査員	韓国	女性	社会人
6	韓国語グループ調査員	韓国	女性	学生
⑦	英語グループ調査員	米国	男性	社会人
8	英語グループ調査員	豪州	男性	社会人

※丸数字は調査員リーダー

③検証調査の実施

実査は平成22年3月2日（火）の一日で行った。
当日は降雨や降雪もなく比較的穏やかな一日であった。交通機関の遅滞もなくあらかじめ定めたスケジュール通り、円滑に調査を進めることができた。

実査開始に先立って、実証モデルの一環として制作した「公共交通機関利用ガイド」と称する印刷物を配布し、あらかじめ読んでもらっておいて、当日のバス、電車の利用の際に活用してもらうこととした。なお、実査終了後にこの印刷物に対する意見、要望を聴取した。

平成22年3月2日（火）	
時間帯	内容
9:00～11:30	・近鉄奈良駅（9:10スタート） ・奈良公園 ・国立博物館前、大仏殿春日大社前バス停 ・ならまち（田中町バス停付近） ・「バンビーナ」および市内循環一般車乗車 終了後、近鉄奈良駅周辺にて昼食
12:30～16:30	・近鉄奈良駅前奈良交通案内所 （コミュニケーションボードシミュレーション） ・近鉄奈良駅観光案内所 （デジタルサイネージメディアの試用を含む） ・近鉄奈良駅 ・大和西大寺駅（乗換） ・西ノ京駅 ・薬師寺～唐招提寺 ・平城宮跡バス停 ・大和西大寺駅前